

巻 頭 言

広島大学大学院教育学研究科
研究科長 小 山 正 孝

『広島大学大学院教育学研究科紀要』第66号をお届けします。本年度は、第一部「学習開発関連領域」に13編、第二部「文化教育開発関連領域」に29編、第三部「教育人間科学関連領域」に21編、合計63編の論文を掲載しています。貴重な研究成果を投稿して下さった執筆者の皆様、多くの時間と手間をかけて丁寧で正確な編集作業に携わっていただいた担当委員をはじめとする関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本紀要を手にとってくださいました皆様に厚く御礼申し上げます。各分冊の巻末には、他の部に掲載されている論文の著者と論文題目を記載しておりますので、ご参照ください。また、本紀要に掲載されているすべての論文は、広島大学図書館のウェブサイトからアクセスできる「広島大学学術情報リポジトリ」で公開されています。この電子書庫では、教育学研究科の教員や学生による他の論文等も読むことができます。本紀要とあわせてご覧いただき、忌憚のないご意見やご批評をお寄せいただければ幸いです。

さて、広島大学は研究大学強化促進事業（平成25年8月1日決定 RU 事業）やスーパーグローバル大学創成支援事業タイプ A（トップ型）（平成26年9月26日決定 SGU 事業）の一翼を担う大学として選定されており、その取組みの成果を世に問う義務を負っています。研究力を示す指標の一つとして、国際的に評価の高い学術誌に数多くの論文を投稿し発表することが求められており、教育に関連する領域も例外ではありません。このような状況の中で本紀要に論文を掲載することのメリットとして、専門的学術雑誌では評価が分かれるかもしれない萌芽的研究や革新的研究をいち早く公表できること、同じ組織で働き研究する者同士がそれぞれの研究内容を知り、相互に知的な刺激を受けることによって、研究の活性化を促すことなどが挙げられます。とりわけ、本紀要を刊行する一番の意義は、多様かつ広範な領域の研究成果を集約することで、本教育学研究科としての成果を広く目に見える形にすることにあると考えます。

広島大学大学院教育学研究科の特色は、幼児から高齢者に至る人生のあらゆる段階の学習、教育、人間形成等について、基礎的・理論的なものから臨床的・実践的なものまで多種多様な研究が行われていることです。各領域における研究の高度化、先端化と同時に、学際化、理論と実践の統合を一層進めることによって、現代及び未来の教育的諸課題を解決していくための教育学習諸科学を構築していくことが、本教育学研究科の大きなミッションです。本紀要に掲載されているすべての論文が、そのミッションを果たすための確かな一歩となることを心より願っています。